青森県総合学校教育センター　研究紀要　[2012.3]
Ｇ９－０２

中学校　英語

外国語活動との関連を図った中学校英語科入門期の指導の在り方についての一考察
－英語ノートの内容を反映させた指導プラン立案の試み－

義務教育課　　指導主事　　髙　木　　晋

要　　旨

平成23年度から正式に小学校で外国語活動が導入されたことにより，今後の中学校英語には外国語活動と関連させた指導が求められる。本研究では，小学校で使用されている文部科学省発行の「英語ノート」の内容の一部を中学校の授業に取り入れた英語の指導のモデルプランの作成を試みた。生徒が新たな文構造に触れる時に外国語活動での経験を生かすことで，円滑な中学校英語への導入ができるものと期待される。

キーワード：中学校　英語　入門期　外国語活動　英語ノート　モデルプラン

Ⅰ　主題設定の理由

本研究の主題は，中学校英語の入門期の指導の在り方を小学校の外国語活動との関連から，小学校で使用されている文部科学省発行の「英語ノート」（以下，「英語ノート」とする。)の内容をどのように生かしていくかについて考察し，指導のモデルプランを提案することを目的として設定した。このように主題を設定した理由は，中学校英語を取り巻く以下の二つの背景にある。

第一の背景は，中学校の英語教育に期待される役割の変化である。

平成23年度より，小学校学習指導要領（平成20年３月告示）が全面実施となり，外国語活動の授業が本格的に小学校で始まった。これにより，外国語教育としての英語教育が小学校から高等学校まで一貫した流れをもつに至った。それにより中学校英語は，その果たすべき役割が大きく変わった。中学校英語はこれまでは，生徒に英語を初歩から教えて高等学校に送り出すという英語教育の起点に当たる役割を担ってきた。しかし，これからは，小学校の外国語活動で英語に触れてきた生徒を受け入れ，育てて高等学校に送り出すという中継点としての役割を担うことに変化したのである。

中学校は平成24年度から新しい学習指導要領が全面実施され，高等学校は平成25年度から学年進行で新しい学習指導要領が実施に移されるが，そのいずれにおいても，校種間での連携の必要性が指摘されている。

例えば，中学校学習指導要領（平成20年３月告示）の「第９節　外国語」の「第３　指導計画の作成と内容の取扱い」において「小学校における外国語活動との関連に留意して，指導計画を適切に作成するものとする」と記されている。高等学校学習指導要領（平成21年３月告示）「第８節　外国語　第２款　各科目」の「第２　コミュニケーション英語Ⅰ」の「３　内容の取扱い」の中では，「中学校におけるコミュニケーション能力の基礎を養うための総合的な指導を踏まえ，聞いたことや読んだことを踏まえた上で話したり書いたりする言語活動を適切に取り入れながら，四つの領域の言語活動を有機的に関連付けつつ総合的に指導するものとする」と記されている。つまり，これまで以上に，中学校や高等学校に入学してくる生徒が円滑にそれぞれの学校の授業に慣れていくように配慮することが必要とされていると言える。そのためには，小学校，中学校，高等学校ともに，教師が各校種の授業の進め方を理解したり，生徒の学んでくる内容を把握するなど，正しい情報の収集と理解を求めているとも言える。

第二の背景は，小・中学校のつながりで考えた場合，国語・社会・数学・理科とは異なり，英語には小学校卒業段階での教科としての共通の履修内容がないため，小学校との連携をこれまで以上に，より深く考える必要があるということである。

英語以外のこれらの教科については，中学校の教師は，小学校学習指導要領に記された具体的な指導事項を踏まえて，日々の授業を展開することができる。しかし，外国語活動については，小学校学習指導要領で

は中学校学習指導要領にあるような指導するべき文法事項等は示されていない。つまり，どのような表現を授業に盛り込むかについては，基本的には各小学校に任されている。

従って，生徒が中学校に入学してきた時点で，学んでいる内容が年度により一定していないことや，卒業した小学校で学んだ内容に差があることが当然予想される。現にそのような事態に直面しているとの中学校教師の声が，筆者の担当する研修講座の受講者からも聞こえてくる。文法事項の関連性や難易度によって教える内容が配列されている中学校英語と，言語の使用場面を基本に考えている外国語活動との差を埋める必要性もここに見いだすことができる。

また，英語以外の教科では，小学校を卒業する段階で教科の好き嫌いも当然あるものとして生徒を受け入れ，それに対応しながら，中学校での授業を展開している。英語についてもこれからは，音声面で慣れ親しんでいる生徒が増えると予想される反面，中学校に入学する段階で，英語が嫌いであるという生徒も少なからずいる，という前提で教師は対応していかなくてはならない。

今後は，中学１年生の１学期の導入段階で，どのようなことに生徒は苦手意識をもっているのかについて把握する必要があるなど，これまでの入門期の指導の在り方を見直す必要がある。

このように，外国語活動と英語との関連を図るためには，教える内容の関連や英語に対する生徒の考えの変化という他教科とは異なる事情を考慮しなければならない。それだけに小学校と中学校の間には，情報交換やお互いを理解するなどの活動が必要なのである。

以上二つの背景から，本研究に取り組むこととした。その際，小学校と中学校の授業を関連させるものとして，文部科学省発行の「英語ノート」を取り上げることにした。外国語活動の具体的な内容は各学校に任されているとは言え，Benesse 教育研究開発センターによる「第２回小学校英語に関する基本調査（教員調査）2010」においては，調査対象のうち89.6%の学級担任が「英語ノート」を活用していることが明らかにされている。このことから，「英語ノート」の内容を基にして，小学校と中学校の授業を関連させた指導の在り方を考えることは有効であると考えた。

Ⅱ　研究目標

外国語活動との関連を図った中学校英語科の指導の在り方を探る。そのために，小学校で使用されている「英語ノート」と中学校英語の教科書に共通する言語材料を抽出し，「英語ノート」と関連させた中学校英語の指導モデルプランを提案する。

Ⅲ　研究の実際とその考察

１　外国語活動に対する中学校の英語教師の意識

以下においては，中学校の英語教師が外国語活動をどのように見ているかについて，先行研究と，筆者の担当する研修講座の受講者を対象とする質問紙調査との二つの視点から検討する。

(1) 先行研究に見る中学校英語教師の外国語活動の捉え方

Benesse 教育研究開発センターが2008年に行った「第１回中学校英語に関する基本調査（教員調査）」の中で，中学校の英語教師に小学校英語との関わりについて，中学校区内の小学校英語とどのように関わっているかについてと，小学校英語についてどのように考えているかを尋ねた調査項目がある。調査対象は全国の公立中学校の英語教師で，有効回答数は3,643 名であった。

なお，この調査では外国語活動ではなく，小学校英語または英語活動という言葉が使用されている。

まず，「校区の小学校英語との関わり」についての調査結果は表１のとおりである。

表１　校区の小学校英語との関わり　（単位　%）

質問内容	とてもあてはまる	まああてはまる	あまりあてはまらない	まったくあてはまらない	無回答・不明
小学校の英語教育（活動）について知っている	１４．２	３４．３	３０．５	１４．５	６．５
小学校の英語活動担当の先生と中学校の英語の先生とで集まる機会がある	１０．５	１８．１	１８．８	４５．９	６．７
小学校の英語教育（活動）の授業見学に行く	９．０	１６．５	２３．９	４４．１	６．６
小学校で授業をすることがある	６．３	８．５	１２．５	６５．９	６．８
中学校での英語の授業の導入ややり方を小学校に合わせて変えている	２．４	１１．１	２２．２	５７．７	６．５

※引用文献のグラフ化されたデータを，髙木が表に書き換えた。

この表から読み取れることは，小学校と中学校とのつながりを考えるための基本的な対策である，小学校と中学校教員の情報交換や授業見学といった機会が十分に確保できていないことである。

また，「中学校での英語の授業の導入ややり方を小学校に合わせて変えている」ことについては，８割ほどの中学校教員が否定的な回答を寄せている。これは，教師同士の交流や授業参観といった対策の不足も遠因となっていることが予想される。同時に，従来の指導法を大きく転換しなくてはならないのではないかといった，中学校教員の不安も反映されていることが考えられる。このことを裏付けるように，この調査研究の中で「小学校における英語教育（活動）について」どのように考えているかを尋ねた質問に対して，「中学校入学時点での英語の学力差が出る」と懸念を示している教師が６割を超えている。先述のとおり，中学校英語の役割は外国語活動の導入と同時に大きく変化した。そのため，従来どおりに初歩から教えるような指導をしていては，せっかく小学校で培ってきた「コミュニケーション能力の素地」を生かしきれない可能性も生じてくる。小泉仁他による調査研究の中では，「子ども達を送り出した側と，受け入れる側として，お互いが子どもの学習実態を知りたいという気持ちがあるにもかかわらず，中学校で「ゼロからスタート」という結果になるとすれば非常に残念なことである。小学校で出来たことが中学校でプラスにならなければ，小学校英語の成果は無駄になるし，連携は意味を持たなくなる」という指摘もなされている（伊藤弥香，2008）。この指摘は，今後の中学校の英語をいかに指導していくかという点について重い意味をもってくると言える。実際，平成24年度から全面実施される中学校学習指導要領の外国語の英語の目標のうち，「話すこと」「聞くこと」については，小学校で「慣れ親しんでいる」という前提で中学校の目標が立てられていることからも，中学校は，従来どおりの指導を変えていかなくてはならないことは明らかである。

(2) 講座受講者への質問紙調査に見る中学校英語教師の外国語活動への関わり

筆者が担当する研修講座の受講者を対象に，現在，外国語活動にどのように関わり，どのように考えているかの実態を把握するために，質問紙調査を行った。回答者数は18人である。調査の標本数としては少ないため，本調査で得られた調査結果を一般化することは難しい。

しかし，県内各地からの受講者から回答を得ているので，大まかな傾向をつかむことはできると考えた。

質問内容とそれに対する回答数は表２のとおりである。

外国語活動の授業参観，小学校との情報交換とも半数以上の受講者が経験があると回答している。また，数は少ないが，小学校で授業をしたり，小学校の教員から外国語活動についての相談を受けたりした経験のある受講者もいる。このことから，小学校と中学校とつながりをもつための取組が進められつつあることがうかがえる。

また，小学校と中学校との連携を考えていく上で，今後優先して取り組んでいくべき活動としては，小学校と中学校との情報交換はもちろんであるが，小学校と中学校で関連した指導計画の作成を挙げている受講者が半数を超えている。このことは，外国語活動で学習してきたことを踏まえて中学校の英語の授業を展開していかなくてはならないという意識の表れであると考えられる。

表２　講座受講者アンケートの結果

	質問内容	結果　※（　）内の数字は回答者数。
1	過去三年間での，外国語活動の授業参観の有無。ある場合，その回数。	なし（６） あり（１２） 回数：１～３回（８） ４回以上（４）
2	過去三年間での，小学校との情報交換の機会の有無。ある場合，その内容。（複数回答。）	なし（８） あり（１０） 内容：外国語活動の指導方法　（１０） 外国語活動の内容　（１０） 「英語ノート」の活用　（６） 外国語活動への児童の意識（４） 外国語活動の指導計画　（３）
3	過去三年間での，小学校での授業経験の有無。ある場合，その回数。	なし（１２） あり（６） 回数：１回　（１） ２～３回（４） ５～６回（１）
4	小学校の教員からの外国語活動に関する相談の有無。ある場合，その回数。	なし（１４） あり（４） 回数：年に１～３回（４）
5	外国語活動と中学校英語との連携の上で，今後優先して取り組むことを二つ選択。	小・中学校の授業についての情報交換（１４） 小・中学校で関連した指導計画の作成（１０） 相互の授業参観と授業についての協議（９）

(3) 外国語活動との関連を考える上での課題

これまでの検討を基に，中学校英語の教員の外国語活動への意識や関わりについて，以下の二つの課題

を指摘することができる。

第一に，小学校と中学校の教員の交流の機会の確保についてである。交流により，小学校では「コミュニケーション能力の素地」を，中学校では「コミュニケーション能力の基礎」を養うために，どのような授業を展開しているのかを知ることができる。そして，小学校と中学校の相互理解が進むことによって，例えば中学校から小学校に対して，「せめてアルファベットは書けるようにしてもらいたい」といった，外国語活動の内容を超えた要望が出ることも少なくなるであろう。

第二に，外国語活動と英語の授業が円滑に接続できるような指導計画の作成についてである。英語に関しては中学校の役割が大きく変化したことから，講座受講者アンケートにもあるように，外国語活動と関連させた指導計画の必要性は高いと考えられる。また，入学してきた生徒が発音に既に慣れているとか，ALT に対してものおじせずに話しかけることができるようになっていると認識している中学校英語の教員も少なくないことが他の調査研究でも明らかになっており，こうしたプラスの側面を生かすような指導計画を作成することは，中学校の英語の授業をより効果的に進めていくことにもつながる。

２　「英語ノート」で使用されている表現等について

先の二つの課題のうち，以下においては，外国語活動と英語の授業の円滑な接続のための指導計画の在り方について考察する。なお，ここでは平成23年度現在，小学校で使用されている「英語ノート」を基にして考察を進めていく。

表３　「英語ノート」で使用する表現等と中学校で学習する学年との関連

英語ノート１			
Lesson	タイトル	使用表現等	中学校で学習する学年
1	世界の「こんにちは」を知ろう	Hello. / What's your name? / My name is Ken. / Nice to meet you. 等	１年
2	ジェスチャーをしよう	How are you? / I'm happy. 等	１年
3	数で遊ぼう	How many? / Five. / １～２０の数 等	１年
4	自己紹介をしよう	Do you like apples? / Yes, I do. / No, I don't. I like bananas. / Thank you. 等	１年
5	いろいろな衣装を知ろう	I don't like blue. / Here you are. 等	１年
6	外来語を知ろう	What do you want? / Melon, please. 等	１年
7	クイズ大会をしよう	What is this? / It's a pencil. 等	１年
8	時間割を作ろう	I study Japanese. / What subject is this? I study Japanese on Monday. 等	１年
9	ランチ・メニューを作ろう	What would you like? / I'd like juice./I eat fruit and cereal in the morning. 等	※注 １～３年
英語ノート２			
Lesson	タイトル	使用表現等	中学校で学習する学年
1	アルファベットで遊ぼう	What's this? / It's ～. / A～Z 等	１年
2	いろいろな文字があることを知ろう	What's this? / It's ～. / a～z / ２１～１００の数 等	１年
3	友だちの誕生日を知ろう	When is your birthday? / My birthday is March 3rd. １～１２月 序数 等	１年
4	できることを紹介しよう	Can you swim? / Yes, I can. / No, I can't. / I can swim. / I can't swim. 等	１年
5	道案内をしよう	Where is the flower shop? / Go straight. Turn right. / Turn left. 等	１年
6	行ってみたい国を紹介しよう	I want to go to Italy. / Let's go. / 色、形の単語 等	２年
7	自分の一日を紹介しよう	What time is it? / It's seven. What time do you get up? / At 7:00. / I go to bed. 等	１年
8	オリジナルの劇をつくろう	Please help me. / What's the matter? 等	１年
9	将来の夢を紹介しよう	What do you want to be? / I want to be a teacher. 等	２年

※注：would you like～の表現は、教科書によって初出の学年が異なっている。

「英語ノート」はコミュニケーションの場面，言語がどのような場面で使用されているかという観点から，必要な表現や語彙を導入する構成になっている。

「英語ノート」の各単元で使用する表現と，その表現を中学校の授業で扱う学年との関連は表３のとおりである。「英語ノート」で使用されている表現の多くは中学校１年で学習する表現であり，不定詞を用いたwant to や want to beは，中学校２年生の学習内容である。また，「英語ノート１」の各単元の題材については，身近なコミュニケーション場面としてのあいさつに始まり，小学生が興味をもちそうな題材を通して異文化理解を促し，「聞いてみたい，話してみたい」という意欲をかき立てる内容が中心となっている。

「英語ノート２」の題材，特にLesson４以降は，自分の考えを外に向けて発信する題材が盛り込まれている。ここで確認すべきことは，外国語活動は特定の文法事項の定着やスキルの定着を求めるものではないので，左表の表現等がすべて学習され，なおかつ定着しているということを意味していないということである。従って，中学校の授業で当該表現を新出の文法事項として指導する際は，生徒

は外国語活動の授業の中で触れたことを思い出す程度で十分であるという前提で，指導プランを考えていくことが求められる。その際に大切になってくることは，「英語ノート」での言語の使用場面を意識して取り入れることで，外国語活動での体験を掘り起こしながら，中学校で同じ表現に再度触れる機会を生徒に与えることである。たとえ外国語活動で扱わなかった「英語ノート」の単元に出てくる表現を中学校で学習する時であっても，「英語ノート」の題材を用いながら，その表現がどのような状況で用いられるのかを感じさせて，中学校英語としての文法事項の導入にもっていくことも可能であろう。

３　外国語活動と中学校英語とをつなげる活動

⑴ 教科としての英語の指導への導入

図１は，「英語ノート」との関連を考えた，中学校における一般動詞の導入に際して必要な内容と，活動を盛り込んで構成したモデルプランである。現在，中学校英語の教科書は６社から出版されており，このうち１社が一般動詞を先に，５社はbe動詞を先に導入する構成となっている。そのため，三人称とは何かを学ぶ時期が教科書によって異なるが，ここでは三人称について理解させたり，活動を通して復習させたりしながら音声によるinput をしていくものとして，以下の考察を基にプランを立案した。

外国語活動は小学校の領域としての学習であり，英語は中学校の教科である。中学校の教科で，領域と直接つながっているものは英語以外にはない。先述したとおり，この点からも外国語活動から英語に引き継がれる内容は，文法事項などの特定の知識や表現などではないことは明らかである。従って，「コミュニケーション能力の素地」以外には，中学校に入学してきた時点では生徒に共通のものがないという前提で，中学校の授業を始める必要がある。

そのため教師は，小学校の外国語活動の授業を参観し，その後の協議会に参加するなどして，どのような内容が扱われているか，また，生徒が中学校入学前にどんな活動を通して英語に触れているかを知ることが必要である。

また，英語の授業においても，「英語ノート」の内容を意識して扱い，生徒が外国語活動での体験を思い出すことにつなげていくことも可能であろう。

例えば一般動詞の導入は，中学校１年生の一学期であり，小学校まで領域での学習として触れてきた英語を教科としての学習につなげる時期でもある。「英語ノート１」「Lesson４ I like apples.　自己紹介をしよう」と「Lesson５ I don't like

段階①　外国語活動の内容を思い起こす。
《学習内容》
・教師は「英語ノート１」p.25を示しながら，likeを用いた自己紹介，またはShow & Tell をする。可算名詞も不可算名詞も使う。
・この活動をしながら，生徒とのDo you like---? / How about you? を用いたinteraction を行い，生徒の理解度を観察する。
・この活動を通して，外国語活動の経験を思い起こしたり，間違いを恐れずに応答するように生徒を導く。

↓

段階②　正しい表現を学ぶ。
《学習内容》
・「英語ノート１」のp.25のChantsをCDで生徒に聞かせる。その際，likeの後にくる名詞が可算名詞の場合，複数形になっていることに気付かせる。
・一般動詞の疑問文，否定文の規則に気付かせる。
・口頭での練習を豊富に取り入れる。

↓

段階③　音声と文字をつなげ，語彙を増やす。
《学習内容》
・外国語活動や前の段階で扱った文章を文字で提示する。可算名詞の単数形と複数形も含めて提示する。
・外国語活動で触れたり日常で使っている外来語の発音と文字を確認する。
・「英語ノート１」「英語ノート２」で扱われている一般動詞を中心に，生徒が使用する語彙を多く提示する。後の段階でShow & Tell，または自己紹介をする活動に生かすことを念頭に進めていく。

↓

段階④　接続詞を用いるなど，表現の幅を広げていく。
《学習内容》
・中学１年で学ぶ and / butを用いた文を教師のShow & Tellや自己紹介に取り入れて生徒に触れさせる。生徒にShow & Tell，または自己紹介をする課題を与える。また，接続詞を使うことを促す。
グループや学級での活動とする。また，生徒同士によるＱ＆Ａの活動を取り入れる。

↓

段階⑤　主語が三人称単数の場合への橋渡し。
《学習内容》
・「英語ノート１」p.26の部分をCDで聞く，または，教師による音読を聞く。内容を確認後，教師が主語をHe / Sheにして，内容の一部をRetellingし，主語が三人称単数の場合の動詞の変化に気付かせる。

CD収録内容　抜粋
Hello, Ken. / Hello, Mai. / Ken, do you like dogs? / Yes, I do. I like dogs. / Do you like apples? / No, I don't. / Do you like soccer? / Yes, I do. I like soccer. / OK, thank you.

教師のRetellingの例
Ken likes dogs. He doesn't like apples. He likes soccer.
さらに，but/ andを用いてやや複雑な文を提示することもできる。
Ken and Mai like soccer. But Emi doesn't like soccer.

・教師の例に従って，Retellingに挑戦させる。（聞き取った内容を基に，Ken likes dogs. といった文をはじめ，否定文や and / butを用いた文をRetellingする。）
・この段階は，あくまでも後の単元において学習する内容への前段階であることに留意する。

図１　一般動詞導入のモデルプラン

blue. いろいろな衣装を知ろう」の単元では，一般動詞likeを中心にした内容が扱われている。

一般動詞を導入する際は，中学校でもlikeやliveといった自分のことを表現することにつながる一般動詞から入ることが多い。従って，まずは外国語活動での経験を思い出させるような活動が必要になってくる。この活動を通して，教師は，生徒が一般動詞likeを含んだ表現にどの程度慣れているかを判断して，以後の展開の方法を考えることになる。

次の段階では，外国語活動で触れた表現について，正確な音声や文構造などを学ぶ。例えば，「私は猫が好き」という文の場合，likeの後の可算名詞(cat) は複数形(cats)にしなくてはならない。この点については，先にも取り上げたチャンツ‘Do you like apples?’を聞かせたり，歌わせたりすることで，likeの後につながる名詞に注目させることも有効であると考えられる。このチャンツで使用する「英語ノート１」のページには可算名詞と不可算名詞が混在しており，教師が適宜選択しながらチャンツで例を示したり，「英語ノート」付属のCDを利用することで，生徒に動詞likeの後の可算名詞は複数形となることに気付かせたり，外国語活動での学習を思い起こさせたりすることにつなげていくことも可能である。

さらに中学校では，小学校で音声で触れてきたことを文字につなげていくことと，likeに限らず他の一般動詞を用いながら表現する量を増やすこと，接続詞を用いて表現の幅を広げていくことなどが求められる。また，ここまでの活動は全て自分のことを表現する域を出ていないことから，いずれ継続して取り組んでいかなくてはならない，主語に三人称を用いての表現に高めていくことにつなげる指導も盛り込んでおくとよい。三人称単数が主語の場合の練習については，導入の段階では文字としてではなくとも，音声でinput をしておくことが有効であろう。

以上の段階を踏んだ指導の後，教科書を利用した指導に移り，一般動詞に触れる機会をさらに増やしていく。その際，「英語ノート」で扱われている一般動詞を用いて，外国語活動の内容を思い出させながら慣れさせていくことも必要である。

(2) 中学２年で学ぶ文構造と「英語ノート」の題材との接続

図２は，「英語ノート２」の表現とto不定詞の導入のモデルプランである。これは，以下の考察を基に立案した。

「英語ノート２」においては，want to doを用いた表現が扱われている。この表現は，現行の中学校の英語教科書では中学校２年生で扱われており，Show & Tellなどの活動に応用することで，生徒の自己表現の幅を広げることができる。want to do を表現として扱う「英語ノート」の単元では「自分が行きたい国」をテーマに据えることで，「～へ行きたい」，また「（その国で）～をしてみたい（から）」と自然な流れで，自分の思いを表現することができる構成になっている。

段階① 外国語活動の内容を思い出す。　新たな表現としてinput する。
《学習内容》
・教師は，want to doを含んだ内容のモノローグやShow & Tellを生徒に示し，伝えたい内容を考えさせる。
・「英語ノート２」のp.37 Let's Listen やLet's ChantのCDを聞かせ，どんな内容かを予想させたり思い出させたりする。(ALT とのモデル・ダイアログでもよい。)
・「～したい」の言い方を音で確認し，文字でも確認する。

↓

段階②　正しい表現を学ぶ。　音声と文字をつなげる。
《学習内容》
・中学校２年生であることから，平易な単語で構成される文のディクテーションは可能である。
「英語ノート２」p.39やp.40の内容をCDまたは教師，ALT の範読により生徒に聞かせ，ディクテーションをする。
・表現の確認に当たっては，小学校でwant to doを外国語活動で扱った経験がある場合，ディクテーションによって，「話すこと」「聞くこと」としてのみ触れていた表現を文字に結び付けることにつながる。
・want to be / like to do / begin to do / need to doなどの名詞的用法の不定詞も生徒の実態や教科書の内容に応じて導入する。

↓

段階③　Show & Tell やスピーチ等による表現活動をする。
《学習内容》
・「英語ノート２」のLesson６とLesson９のActivityを基にShow & Tellやスピーチの活動を行う。
・前の段階で導入したlike toなど，他の不定詞を用いた表現がある場合は，それらについても応用できるようなモデルを示す。

図２　「英語ノート２」の表現と不定詞の導入を関連させたモデルプラン

さらに，Lesson９ではLesson６の内容を受けてwant to beが導入され，「私は（将来）～になりたい」という将来の夢を表現させる内容へと発展させている。

従って，want to doを用いた文の導入においても，将来の夢をShow & Tell で表現させる応用的な活動のいずれにおいても，小学生はwant to doの表現に抵抗を余り感じることなく触れることができると考えられる。

これら二つの単元の内容を上述のように捉えると，その内容は中学校の授業においても十分に活用でき

るものである。小学生の時に，これらの単元に触れたことがある生徒はもちろん，触れたことのない生徒もwant to doの用法について，Lesson６やLesson９の場面設定を用いた活動を行えば，自然に言語の使用場面と表現を結び付けて学ぶことができる。

平成24年度から使用される英語の教科書のto不定詞の名詞的用法を扱う単元の場面設定については，職業体験を基にしたりしながら，「やってみたいこと」「将来の夢や就きたい職業」などを導入として扱っている教科書が多く，「英語ノート」の設定にもつながっている。また，本文や練習問題のページに出てくる表現についても，want to doを中心としており，この点においても，「英語ノート」と重なる部分が多いことが分かる。これらの点から，「英語ノート」の題材や教材を導入の段階で用いることは，英語の教科書の内容が似ていることや，課題としても取り組みやすいことからも，生徒の学習には有効であると考えられる。

具体的な指導プランの立案に当たっては，図１に示した一般動詞の導入の際に考えたことを基本にし，以下の活動を盛り込んでいく方法が考えられる。最初の段階では，外国語活動で学んだ内容を思い出させたり，新たな内容を生徒にinput したりする。具体的には「英語ノート２」p.37のLet's Chant やp.39のLet's Listenを用いながら，want to doの意味を予想させたり，復習したりする活動が必要である。

次の段階での活動は，正確な文構造を学ぶための活動である。「英語ノート２」のp.39やp.40のLet's Listenの内容を基にして，意味と語順を一致させたりする活動が考えられる。その後，「英語ノート２」p.41のActivityの活動でShow & Tell を行うことで，中学校の学習内容につなげていくようにすることもできる。

図２の三つの段階を踏んだ指導の後に，教科書に進んでいくことも有効であろうし，２～３時間の授業のwarm up に分けて実施することも有効であろう。また，図１及び図２に示したプランは，外国語活動の内容を思い出させながら，少しずつ発展させた表現を取り入れるように計画している。これは，思い出させる段階も大切であるが，小学校の頃と同じレベルの表現や活動だけでは，生徒に達成感を味わわせることにはならないことが予想されるからである。生徒の実態に応じて，Show & Tell で用いる表現などを調整しながら適当な負荷を生徒にかけることも必要である。

４　単元の指導計画のモデルプラン

以下においては，「英語ノート」を単元の指導計画にどのように反映させるかについて考察する。単元の指導計画のモデルプランを立案するに当たっては，現在web 上で公開されている学校図書「TOTAL ENGLISH 」の平成24年度版の年間指導計画等と同教科書「TOTAL ENGLISH ２　NEW EDITION （平成23年２月４日検定済）」（以下，TOTAL とする。）を利用した。ただし，ここで扱う教科書は見本として平成23年度に作成されたものである。扱う単元は「Chapter ３ Lesson５　Career Experience 職業体験」である。この単元をモデルプランの対象とした理由は，Chapter ３では，to不定詞の名詞的用法，副詞的用法，形容詞的用法，疑問詞Why とBecause を用いた応答などを通して，将来の夢についてのスピーチができるようするという目標が掲げられており，「英語ノート２」のLesson６及び９の内容とのつながりを想定しやすいと考えたからである。

表４　英語ノートLesson6,9とTOTAL English 2 New EDITION（学校図書）Chapter 3の内容の関連

英語ノート２	TOTAL ENGLISH	
Lesson ６及び９で扱う表現や内容	単元	Lesson５の各単元で扱う表現や内容
Lesson６ I want to go to Italy. I want to eat pizza. I want to play soccer. I want to see Mt.Fuji.	Lesson ５ ５Ａ	○to 不定詞（名詞的用法） So I want to go to a pastry shop for career experience. I need to think about it. What do you like to do? Well, I like to use computers.
	同５Ｂ	○to 不定詞（副詞的用法） In the morning, they went to a showroom to see robots. They were very excited to control their robots.
	同５Ｃ	○to 不定詞（形容詞的用法） I have so many things to share! I have many pictures to show, too,
Lesson９ What do you want to be? I want to be a teacher.		○to 不定詞（名詞的用法） I want to be an engineer like you. What does Nana want to be?
	同Review	○Lesson５の復習 聞き取り　対話文完成　語順整序 まとまった内容の文章を読んでの英問英答等
	Lesson６ Talking Time	※Lesson６では動名詞，Why / Because の応答，ＳＶＯＯの文型を学ぶ。 Taking Timeでは電話で話すときの表現を学ぶ。
Lesson６ 行きたい国を尋ねる。 行きたい国と理由を発表する。	Chapter３ Project	○将来なりたい職業やしてみたいことをwant to を用いて，主張・理由・結論という構造をもったスピーチ原稿を作る。 ○原稿を基に発表する。
Lesson９ 将来就きたい職業について，尋ねたり答えたりする。		

TOTAL のLesson５の内容と「英語ノート２」のLesson６及び９の内容との関連は，表４に示すとおりである。この表４と先に提案した図２の指導段階を反映させるようにして作成した単元指導計画のモデルプランが図３である。指導計画作成に当たっては，「英語ノート２」のLesson６及び９で設定されている場面をできるだけ用いることで，生徒の学習への抵抗感を減らすことができると考えた。そのためCD，または教師のリーディングによってこれらの表現を導入し，意味を考えさせることから始まるプランとした。

１）単元の目標
・to不定詞の名詞的用法・副詞的用法・形容詞的用法の文の構造を理解することができる。
・外国語活動での学習と関連させて，スピーチにto不定詞を活用することができる。

２）評価規準
ア　コミュニケーションへの関心・意欲・態度
①つなぎ言葉を用いながら，スピーチを続けようとする。
②発表者のスピーチを，関心をもちながら聞く。
③間違いを気にすることなく発言したり質問をしたりする。
イ　外国語表現の能力
①to不定詞を適切に用いて，スピーチ原稿を書いたり，スピーチすることができる。
②発表内容への質問に適切に応答することができる。
③強勢やイントネーションなどに注意して音読やスピーチをすることができる。
ウ　外国語理解の能力
①質問されたり，話されたりした内容を正しく理解することができる。
②発表者の発表内容を正しく理解することができる。
③書かれた内容を正しくすることが理解できる。
エ　言語や文化についての知識・理解
①to不定詞の文の構造を理解している。

３）指導計画（７時間）

時	学習内容	指導上の留意点	単元の評価規準	評価方法
1	・「英語ノート２」p.39 Let's Listen 2及び p.58 Let's Listen を聞き，内容を考える（推測）。 ・to不定詞の名詞的用法のうちwant to do/ beを含んだ文の意味を理解する。 ・want to do/ beを用いて，自分のしたいこと，なりたいものを簡単なスピーチ原稿にまとめる。	・ディクテーションを取り入れて音と文字の両方から文構造の導入をする。	イ① ウ① エ①	・活動の観察 ・作文チェック
2	・５Ａの本文を，強勢やイントネーションなどに注意して正しく音読する。 ・５Ａの本文を読み，MayaとNanaの話している内容を理解する。 ・want to do/ be 以外の名詞的用法のto不定詞としてlike / need to doを導入する。	・like / need to doについては，意味を理解させ，これらを用いた簡単な自己表現をする。	イ③ ウ③ エ①	・活動の観察 ・ワークシートチェック
3	・目的を表わすto不定詞の副詞的用法の文構造を理解する。 ・名詞的用法と副詞的用法のto不定詞とを関連させた例文を基に，１時間目でまとめたスピーチ原稿の内容を拡張する。	拡張した自己表現の例。 ・I like to play baseball. I want to go to America to play baseball. I need to study English to go to America.	イ① エ①	・活動の観察 ・作文のチェック
4	・５Ｂの本文を，強勢やイントネーションなどに注意して正しく音読する。 ・５Ｂの本文を読み，会社見学の内容を理解する。 ・「感情を表わす形容詞＋to不定詞」を含んだ文の意味を理解する。 ・前時までのスピーチ原稿の内容を見直し，書いたものを班やペアで交換して互いの文章を読み合い，コメントを書く。	・間違いの修正よりも，伝えたい内容を重視させる。	イ③ ウ②③ エ①	・活動の観察 ・ワークシートのチェック
5	・to不定詞の形容詞的用法の文構造を理解する。 ・形容詞的用法のto不定詞を含んだ対話練習をする。 ・スピーチ原稿に寄せられたコメントを基に，内容の修正や拡張をする。	・これまで学んだ不定詞をできるだけスピーチ原稿に応用するように働き掛ける。	ア③ イ① エ①	・活動の観察 ・作文のチェック
6	・「英語ノート２」のp.60,61を応用してWhat do you want to do/ be? / I want to do/ be ～.の応答を導入の活動として行う。 ・５Ｃの本文を，強勢やイントネーションなどに注意して正しく音読する。 ・５Ｃの本文を読み，手紙の内容を理解する。	・「英語ノート２」では「夢を紹介する」活動であるが，これにこだわらずにテーマを設定した活動を行う。	イ③ ウ③	・活動の観察 ・ワークシートのチェック
7	・Review①と②を基にして，Lesson５の復習をする。 ・班やペアで，この課で作成したスピーチ原稿を基に，スピーチをする。 ・スピーチについての質疑応答をする。	・活動終了後，原稿を提出させる。	ア①②③ イ①②	・活動の観察 ・ワークシートのチェック ・作文のチェック

図３　不定詞を扱う中学校英語の単元指導計画モデルプラン例
(TOTAL ENGLISH 2 NEW EDITION Chapter3 Lesson 5)

たとえ，外国語活動でこれらの表現に触れていなくても「英語ノート２」の設定は中学生には容易に予測ができるものと考えられる。

また，導入で扱うwant to do / be については，like / need to do や，副詞的用法・形容詞的用法のto不定詞と関連させながら，毎時間のwarm up で扱うことで定着を図ることも必要である。全体として，自分のことについてのスピーチをすることを目標として，学んだto不定詞をその都度応用してスピーチの原稿に追加していくという流れをもったモデルプランの立案を試みた。このようにwant to do / be の定着を図るためには，教師がモデルとなるスピーチ原稿を提示することが必要であるとともに，どのようなことを表現する時に，to不定詞を用いるかについて，具体的な活動を取り入れることによって理解させる必要がある。

図３に示した指導計画の評価方法には，毎時間「活動の観察」を設定した。これは，生徒がその時間に行う活動をどの程度理解しているかを常に把握しておくことが，次の活動でどのように導くかに不可欠だからである。特に，コミュニケーション活動を取り入れる際は，この視点が大切である。また，計画の中の「作文のチェック」はスピーチ原稿の点検を指し，「ワークシートのチェック」はスピーチ以外の活動で使用するワークシート類の点検を指す。下線を付した部分は，外国語活動とのつながりを意識した活動である。この部分については，「英語ノート」によらずに，他の教材を利用しながらの指導に替えることも可能である。ここで必要なことは，生徒の外国語活動での体験を掘り起こしたり，生かしたりしながら「英語ノート」の場面設定を生かしたコミュニケーション活動へとつなげていくことである。当該単元が中学校２年生ということで，外国語活動を体験した時期からは離れているものの，「英語ノート」の場面設定は中学校での指導にも十分に耐えうるものであり，導入に際して利用することは生徒にとっても抵抗感が少なく，有効にはたらくと考えられる。

Ⅳ　研究のまとめ

本研究は，外国語活動から中学校英語の指導への円滑な接続の在り方の一つとして，「英語ノート」を中学校の授業でどのように生かしていくかについて考察し，指導のモデルプランの提案を試みたものである。これは，小学校に外国語活動が導入されたことに伴い，小学校から高等学校へ至る一貫した英語教育をこれからは考えていかなくてはならないという背景による。この一貫した英語教育を考える上で，中学校の役割は大きく変化しているが，外国語活動が領域であるため，領域から教科へとつながるという点で他教科とは異なる事情を中学校英語は抱えている。

先行研究においては，外国語活動と中学校英語との関連を図る上での課題を解決する第一歩であるはずの小学校と中学校との交流が余り活発ではないことや，中学校の英語教師から中学校入学時点での学力差を懸念する声が挙がるなどの課題も明らかになっている。しかし，小学校との交流や連携，小学校と関連させた指導計画の立案が今後必要であるとの認識も同時に英語教師はもち始めている。

そこで，本研究では，小学校と中学校との関連を図る指導を考えるために，「英語ノート」を中学校の授業に生かすことを基本とし，主として，単元や文構造の導入段階や，Show& Tellやスピーチなどの表現活動に「英語ノート」の内容を生かすような指導モデルプラン（図１～３）を構成し，提案した。

Ⅴ　本研究における課題

外国語活動の導入に伴い，中学校英語の入門期の指導は，外国語活動との関連を意識せざるを得なくなってきた。関連を意識した指導等については，小学校との情報交換や相互の授業参観をすること，指導計画を小学校と関連させて作成するなどのことが考えられる。しかし，実行に移すためには時間的な制約や小学校と中学校との日程のすり合わせが必要になるなど，障害が大きいことも事実である。そこで，本研究では，「英語ノート」で扱われている設定場面や題材を中学校の授業に用いることで，外国語活動と中学校英語との関連をより身近な視点から捉えることができると考えた。また，生徒にとっては，新出文型に対する心理的な抵抗感を減らしたり，外国語活動での内容を思い起こしたりしながら学習に入っていけるのではないかと考え，考察を進め，指導のモデルプランを提案した。

今後は，実際の授業や指導計画にこれらのプランを応用し，そこから得られる改善に関わる情報を精査しながら，各学校の実態に応じたプランへとつくり変えていく必要がある。また，今回のモデルプランは「英語ノート」を小学校である程度扱っているという前提で考えられているが，「英語ノート」以外の教材を用

いている場合については想定していない。従って，外国語活動と関連させた指導計画をつくる際には，小学校で扱っている教材についての情報，例えばどのような表現に触れてきているか，といった情報を前年度のうちに収集しておくことが望まれる。

今後，中学校は，外国語活動が行われることを好機と捉えて，生徒の指導に当たっていかなければならない。そのためにも，本研究で提案したモデルプランのような指導計画を作成しながら，実地に検証し改善を図っていくことが必要である。そのことが，中学校の英語教師の外国語活動への理解を深めていくことにつながっていくと考えられる。

＜引用文献＞

文部科学省　2008　『中学校学習指導要領』（平成20年３月告示），p.111

文部科学省　2009　『高等学校学習指導要領』（平成21年３月告示），p.111

Benesse 教育研究開発センター　2009　『第１回中学校英語に関する基本調査（教員調査）（速報版）』，pp.14-15，ベネッセコーポレーション Benesse教育研究開発センター

伊藤弥香　2008　「英語特区プログラムにおける懇談会」　小泉仁他　2008　『小学校英語活動と中学校英語の連携についての総合的研究－研修の実態と教員意識の調査－』平成19－21年度科学研究費補助金基盤研究(B) 研究成果報告書　平成19年度報告書，p.39，東京家政大学

文部科学省　2009　『英語ノート１　指導資料』，p.60

矢田裕士，吉田研作他　2011　『TOTAL ENGLISH ２　NEW EDITION 』，pp.66-71，学校図書

＜参考文献＞

文部科学省　2009　『英語ノート１』，『英語ノート２』

文部科学省　2009　『英語ノート２　指導資料』

矢田裕士，吉田研作他　2011　『TOTAL ENGLISH １　NEW EDITION 』　学校図書

＜参考ＵＲＬ＞

学校図書　2011　「平成24～27年度用　TOTAL ENGLISH NEW EDITION　年間指導計画作成資料（評価規準付）　１年」
http://www.gakuto.co.jp/hieigo/down/h24totalenglish1.jtd　(2011.12. 5)

学校図書　2011　「平成24～27年度用　TOTAL ENGLISH NEW EDITION　年間指導計画作成資料（評価規準付）　２年」
http://www.gakuto.co.jp/hieigo/down/h24totalenglish2.jtd　(2011.12. 5)

Benesse 教育研究開発センター　2011　「第２回小学校英語に関する基本調査（教員調査）2010ダイジェスト」
http://benesse.jp/berd/center/open/report/syo_eigo/2010_dai/pdf/dai_all.pdf　(2011.12. 5)